

山の百名花

遠足員 村田 浩子

【73】ハナネコノメ

ネコノメソウを見るたびに、いつも暗がり  
で光る猫の目を連想して、うまい名をつ  
けたものだと思う。

ネコノメソウ属は日本には14種類もあ  
って、その全部を見分けることは難しい。

比較の見分けやすいヨゴレネコノメは、葉  
の色が白くほこりをかぶったように見える  
ために、この気の毒な名がついたようだ。

際立って美しいのはコガネネコノメソウ  
で、黄色い四角い箱の中に黄金色の丸い玉  
が並んでいるようなその花に出会ったとき  
は、思わず足をとめて見とれてしまった。

関東から九州まで広く分布するが、数はあ  
まり多くないようで、残念ながらその後、  
この花を見る機会には恵まれていない。

どれが花だかわからないようなネコノメ  
ソウ属の中で、ハナネコノメだけは白い花  
びらのように見える萼から真っ赤な葯が長  
く伸びだし、いかにも花らしい花の外見を  
備えている。

一度見たいと思いつながら、あまり小さい

ため、気づかずに通りすぎていたようで、  
沢沿いの道で足元に咲く可憐な花を初めて  
それと知ったときは、とても嬉しかった。  
以後、春まだ浅いころに沢のほとりを歩  
くときは、いつもこの花との出会いを期待  
しながら歩いている。



【74】エゾエンゴサク

ケシ科キケマン属の中で、ヤマエンゴサ  
クはキケマンやムラサキケマンとは全く違  
った雰囲気を持っている。

まず、道端に咲くキケマンやムラサキケ  
マンが雑草のように親しみやすい花である

のに対し、ヤマエンゴサクの冴えた青紫色  
は一種の気品を感じさせる。

またキケマンの類が有毒で、触ると悪臭  
を放つのに対し、エンゴサクの球根は漢方  
薬として使われ、若い葉は食用にもなる  
という。この葉は周囲の落葉広葉樹が葉を繁  
らせるころには、花とともに地上から姿を  
消す。いわゆるスプリング・エフェメラル  
の典型植物である。

ヤマエンゴサクは群生せず、ぽつんとひ  
とりに咲くことが多いが、その仲間であるエ  
ゾエンゴサクはしばしば群生する。エゾの  
名は持つが、北海道に限らず、東北地方に  
も分布し、花の色はヤマエンゴサクよりさ  
らに澄みきった空のように深く、これが群  
生するさまは例えようもなく美しい。

昨年、緒形拳の最後の出演作として話題  
になったテレビドラマ「風のガーデン」で、  
末期癌に侵された主人公の男性が、自閉症  
の息子が好きだというエゾエンゴサクの球  
根をひそかに林の中に植え、彼の亡き後、  
春を迎えて一面に咲く水色のエゾエンゴサ  
クに息子が目をみはる場面は、心に残る感  
動的なラストシーンであった。